

令和6年度

第2回 豊見城市地域公共交通協議会

【令和6年度総合交通戦略の個別施策実施】

-
- 1.市内一周線（105番）乗降調査について
 - 2.ラストワンマイル交通需要調査の実施について
 - 3.学校教育におけるモビリティマネジメント（MM）について
 - 4.各施策の課題及び展開方針について
-

令和7年2月3日
豊見城市 都市計画課

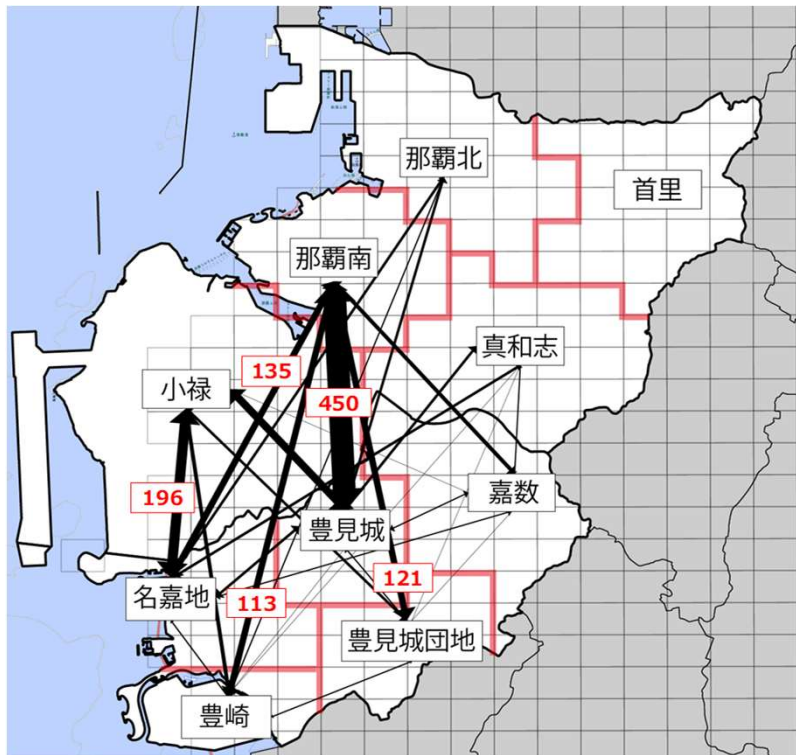
1.市内一周線（105番）乗降調査

参考：令和5年度の分析結果について

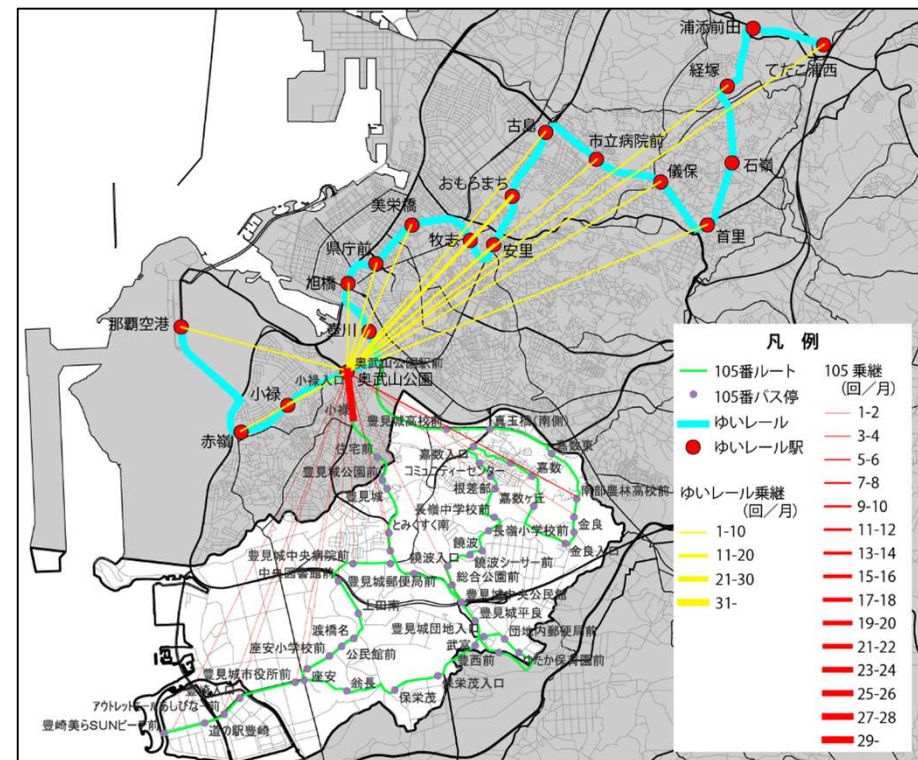
- バスによる移動は豊見城⇄那覇南の移動が最も多く、次いで名嘉地⇄小禄、その他では名嘉地・豊崎・豊見城団地・嘉数⇄那覇南、豊見城⇄小禄の移動が多くなっている。
- 105番の利用は小禄ー奥武山公園駅前が最も多く、次いで小禄入口、南部農林高校前と続く。
- ゆいレール側では奥武山公園ーおもろまち間、次いで那覇空港、小禄と続く。

■OKICAデータ分析

2023年6月（1カ月）のデータを活用して、乗降バス停の地区間移動を分析



2019・22・23年 3カ年のゆいレール-市内一周バス（105番の乗継実績）の乗継を分析



1.市内一周線（105番）乗降調査

(1) バス乗降調査概要について

- 市内一周線（105番）の利用実態を詳細に把握する目的として、ドライブレコーダーを用いたバス停間OD調査を実施。
- データの欠測、イベントによるルート変更等により集計に持ちいたデータは12/2～12/8の7日間。

①調査目的

- バス車内へドライブレコーダーを設置し、市内一周線利用者の乗車バス停、降車バス停を把握し、利用者のバス停間ODを把握する。
- 人手不足等による減便がみられるなかで、継続的なバスの運行を目指し、効率的な輸送環境の構築を目指す

②調査期間

令和6年11月25日（月）

～令和6年12月8日（日）



③データ取得分類

	性別	属性	年齢	乗降場	曜日	平休
1	男	一般	高齢者（60代以上～）	各バス停	月	平日
2	女	学生	大人（20代～50代）		火	土・日・祝
3		観光客	高校生～小学生		水	
4		外国人	小学生未満（幼児）		木	
5					金	
6					土	
7					日	

④設置機材



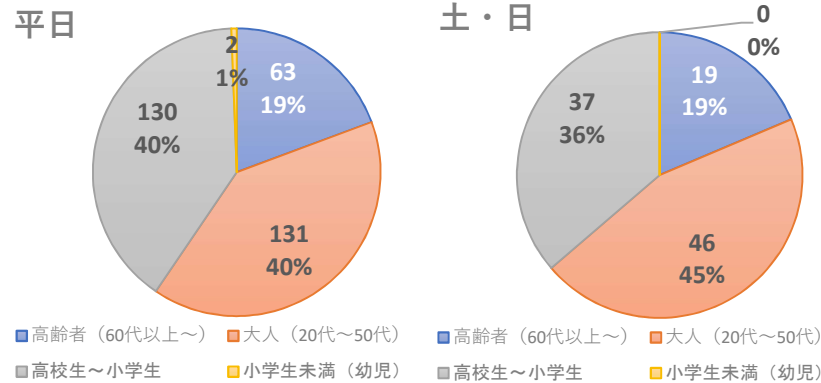
- microSDメモリーカード：256GB
- 連続撮影：20時間
- 前後解像度：1920×1080（30fps）
- 電源：シガーソケット

1.市内一周線（105番）乗降調査

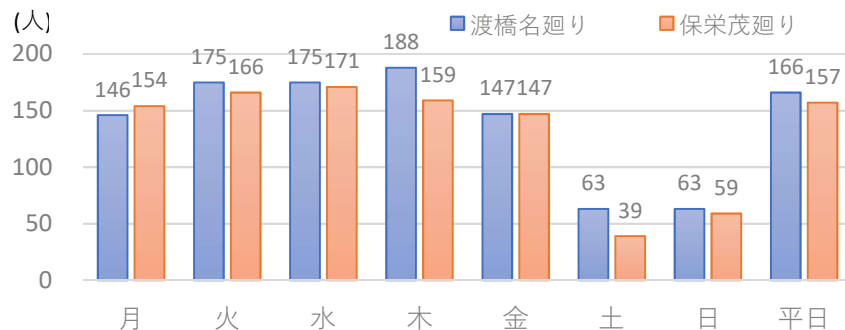
(2) バス利用OD調査結果について

- 利用者属性では多くが**高校生～小学生及び大人が80%**、高齢者は20%程度となっている。
- 曜日別利用者数は、平日が多く、土・日は平日の半数以下の利用となっている。
- 便別利用者数は、平日の朝・夕（1便6便）の利用が多く、日中の2～5便では土・日が概ね多い傾向が見られる。

1) 利用者属性

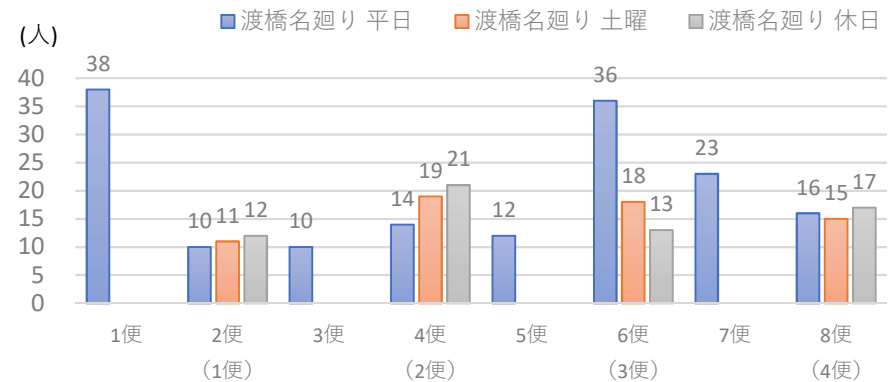


2) 曜日別利用者数

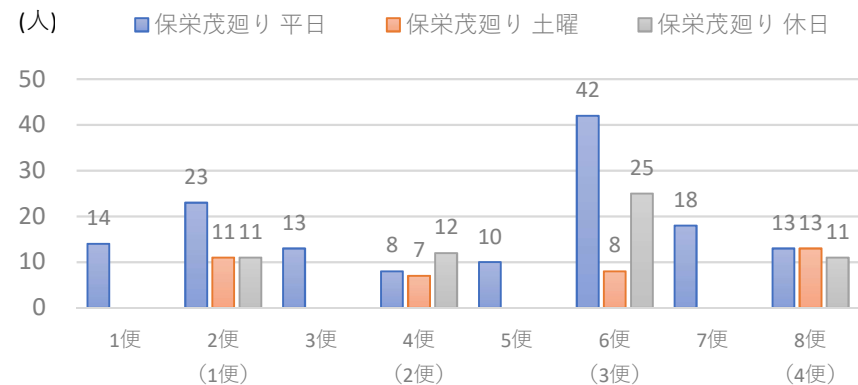


3) 便別利用者数

① 渡橋名廻り



② 保栄茂廻り



* 便別の平・土・日は始発時間に合わせて数値を比較

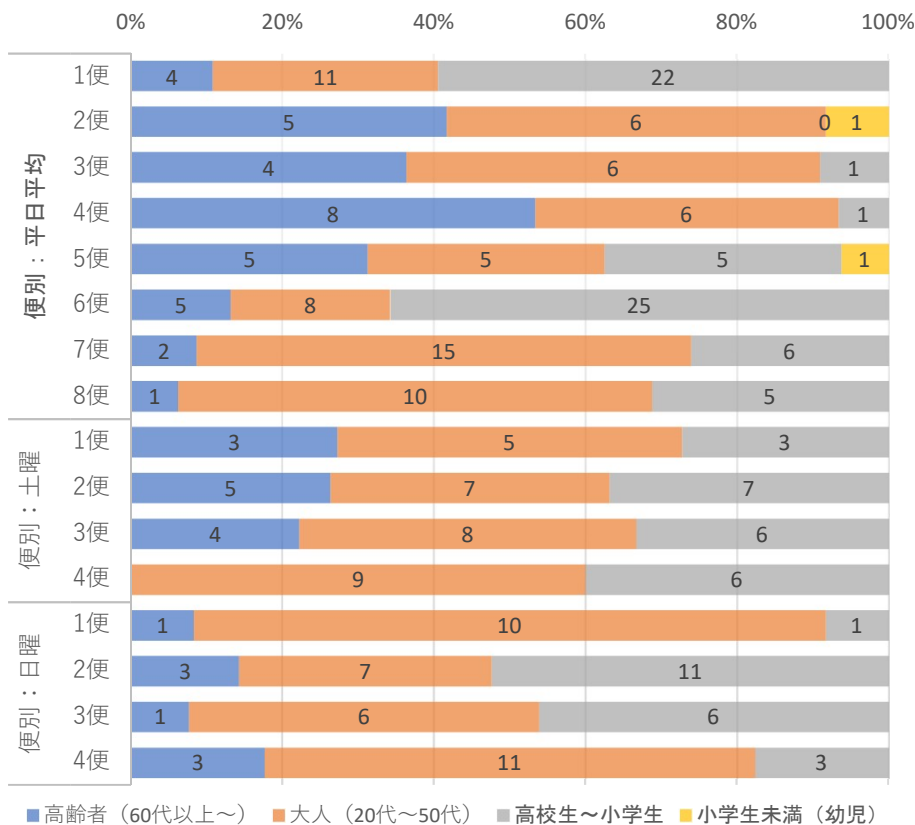
1.市内一周線（105番）乗降調査

(2) バス利用OD調査結果について

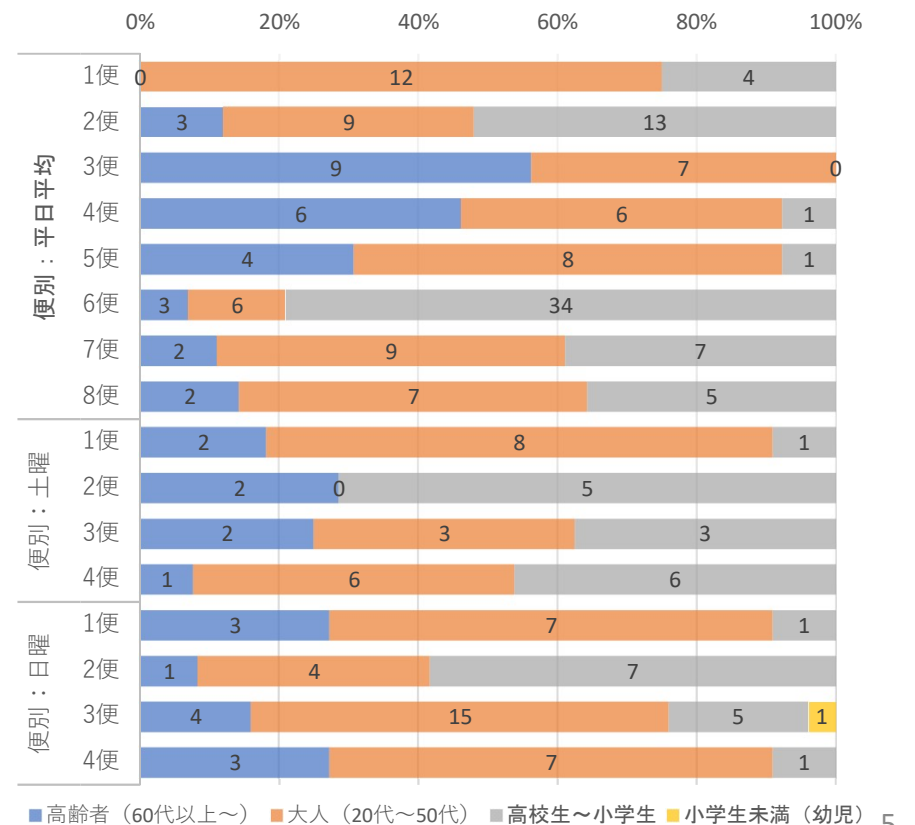
- 便別に利用者の属性割合をみると、朝・夕時間では大人、高校生～小学生の割合が高いことから、通勤・通学時の移動手段として利用しているものとする。
- 高齢者の利用をみると、平日の日中の2～5便の利用割合が高く、土・日の利用割合は低い。高齢者は利用者が少ない平日の日中に買物・通院利用していると想定される。

4) 利用者属性（参考）

① 渡橋名廻り



② 保栄茂廻り



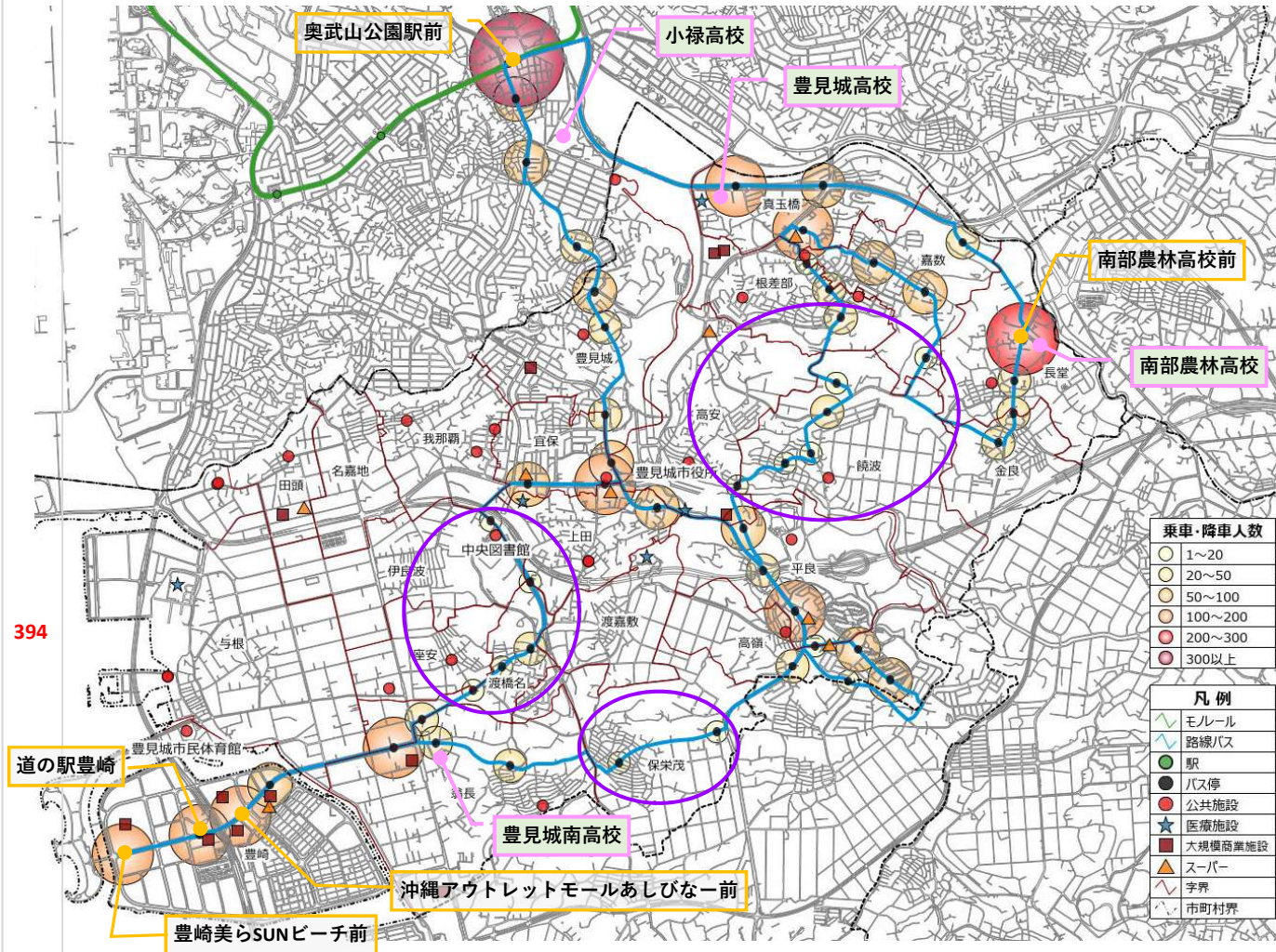
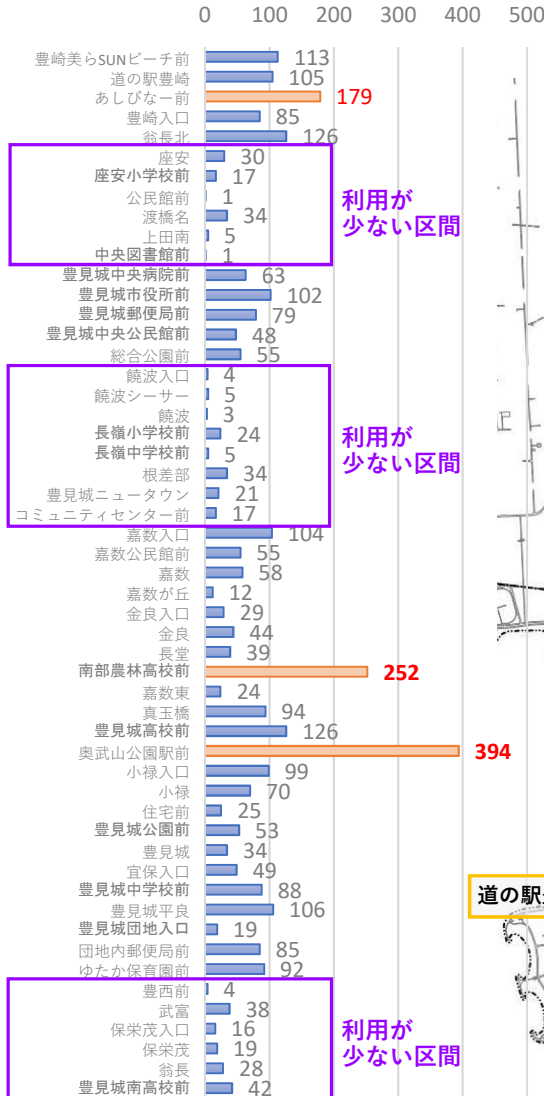
1.市内一周線（105番）乗降調査

(2) バス利用OD調査結果について

- バス停毎の利用者数をみると、奥武山公園前、南部農林高校前及び沖縄アウトレットモールあしびなーの利用者数が顕著。（通勤・通学時の利用をはじめ、観光客等の利用が想定される）

5) バス停別乗降者数

- * 奥武山公園前駅から那覇市方面への乗換、高校や大型側商業施設周辺に利用が多い
- * 渡橋名、饒波、保栄茂等の一部区間では利用者が少ない



1.市内一周線（105番）乗降調査

(2) バス利用OD調査結果について

- 市内一周線（105番）での移動特性では、利用者の約64%が内々移動（市内⇄市内）、約36%が内外移動（市内⇄那覇市）で利用。
- 地域区分の繋がりでは東部と中央、東部と西海岸地区の繋がりが高く、市内一周線（105番）での地域移動の利便性は高いと考えられる。

6) 移動特性

①市内々・内外移動

- 市内々のみならず、内外移動での利用も高い
- 平・土・日の内々、内外移動の割合は概ね同等

	平日		土曜		日曜		全体	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
内々移動	1,042	63.9%	62	60.8%	76	62.3%	1,180	63.6%
内外移動	588	36.1%	40	39.2%	46	37.7%	674	36.4%
合計	1630		102		122		1,854	

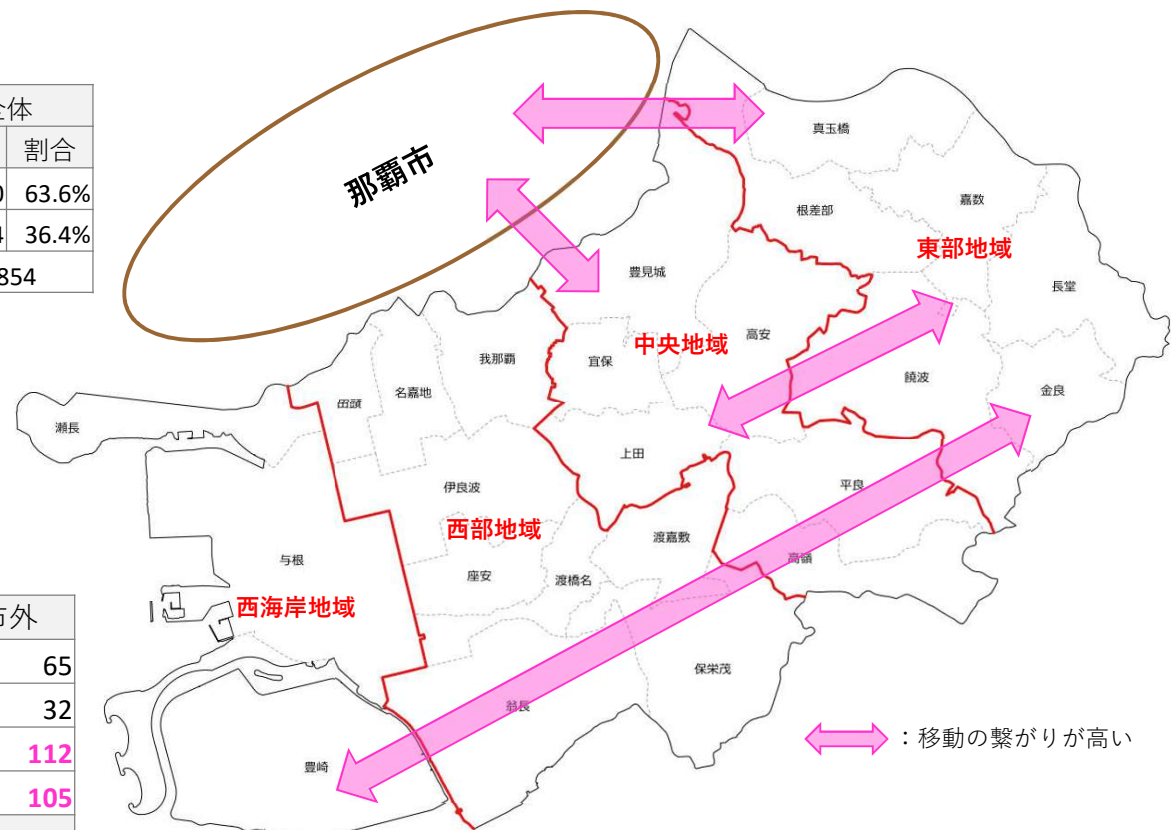
②区域内々・内外移動

- 那覇市との繋がりでは東部および中央地区が他の地区に比べ高い。
- 中央及び東部地区では、他の地区に比べ地区内々移動での利用が多い。
- 西部地区の利用者は他の地区に比べ少ない。

地域区分	西海岸	西部	中央	東部	市外
西海岸	2	27	87	112	65
西部	30	7	59	38	32
中央	75	50	95	132	112
東部	161	51	181	69	105
市外	47	26	152	127	4

■地域区分図

* 自然及び地理的条件を加味しつつ、将来都市構造上の拠点の位置づけ、今後の都市づくりの方向性、土地利用のまとまり等を考慮し設定

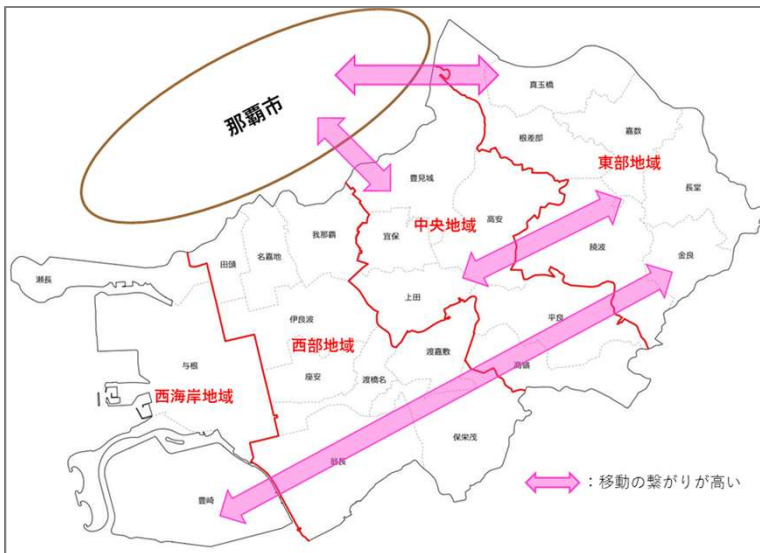


1.市内一周線（105番）乗降調査

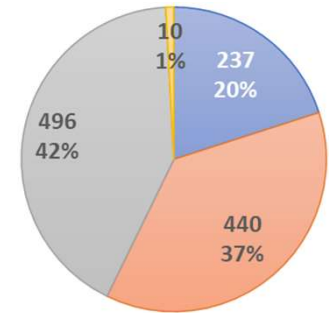
(2) バス利用OD調査結果について

参考：OD別年齢構成

- ・市内々では高校生～小学生、市内外では大人の割合が高い。
- ・地域別移動では東部と西海岸及び中央は高校生～小学生の割合が高い。
- ・市外とでは中央が大人、東部が高校生～小学生の割合が高い。

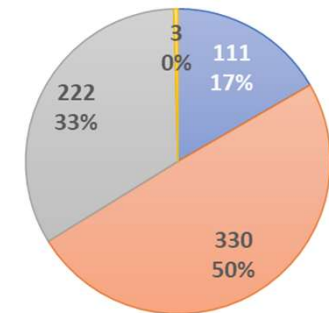


① 市内⇄市内



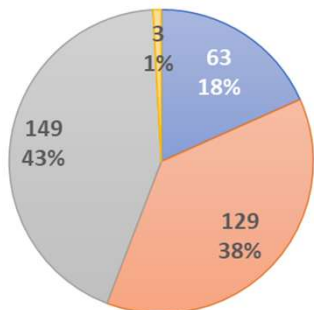
■ 高齢者 (60代以上～) ■ 大人 (20代～50代)
■ 高校生～小学生 ■ 小学生未満 (幼児)

② 市内⇄市外



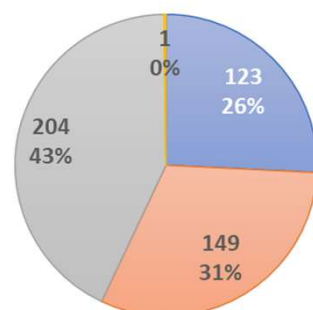
■ 高齢者 (60代以上～) ■ 大人 (20代～50代)
■ 高校生～小学生 ■ 小学生未満 (幼児)

③ 西海岸⇄東部



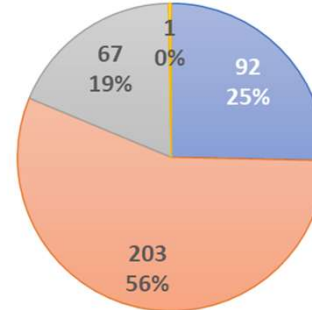
■ 高齢者 (60代以上～) ■ 大人 (20代～50代)
■ 高校生～小学生 ■ 小学生未満 (幼児)

④ 中央⇄東部



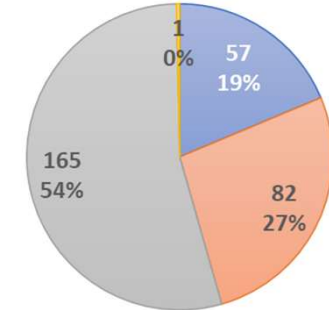
■ 高齢者 (60代以上～) ■ 大人 (20代～50代)
■ 高校生～小学生 ■ 小学生未満 (幼児)

⑤ 中央⇄市外



■ 高齢者 (60代以上～) ■ 大人 (20代～50代)
■ 高校生～小学生 ■ 小学生未満 (幼児)

⑥ 東部⇄市外



■ 高齢者 (60代以上～) ■ 大人 (20代～50代)
■ 高校生～小学生 ■ 小学生未満 (幼児)

2.ラストワンマイル交通需要調査の実施

(1) タクシー割引クーポンアンケート調査概要

- 既存公共交通を補う交通施策を検討するため、ラストワンマイル交通需要についてタクシー割引クーポンを活用したアンケート調査を実施。（市内全世帯に対しタクシー割引クーポン（アンケート）を配布）
- アンケート調査では、運転免許返納意向や今後希望する市の取組の設問を設け、高齢者の免許返納に向けた効果実証調査や共創モデル実証運行事業の取得を目指し本市におけるラストワンマイル交通導入の施策を推進します。

①実施期間

■実施期間

令和6年11月1日～令和7年1月31日

■使用時間帯

7:00～19:00

②配布及び周知方法

■配布方法

- A3用紙サイズのアンケート付割引クーポンを市広報誌へ折り込み、市内全世帯へ配布
- ハイヤー・タクシー協会登録の法人タクシーはすべて利用可
- 一世帯あたり、クーポン券4枚

■周知方法

- 市ホームページへの掲載、自治会長会において説明

③アンケート及びタクシー割引クーポン

- アンケートを回答することでクーポン券の利用が可能

**豊見城市ラストワンマイル交通
需要調査アンケート**

- 利用箇所(施設名または地名(例:豊見城市町村字宜保))
乗車(市町村字)
降車(市町村字)
最終目的地(市町村字)
- 利用時間
乗車(時分)～降車(時分)
- 利用目的(該当項目に☑)
買物 通院 娯楽・飲食 通勤・通学 送迎
その他()
- 年代(該当項目に☑)
18歳未満 18～29歳 30～39歳 40～49歳
50～59歳 60～69歳 70～74歳 75～79歳
80歳以上
- 日常的な移動手段(該当項目に☑)
自家用車 バス タクシー 徒歩 自転車
その他()
- 運転免許返納の意向(該当項目に☑)
すでに返納済み(年 月 日)ごろ
今後、返納予定(年 月 日)ごろ、または 歳頃
今のところ返納は考えていない
- 今後市に取り組んでほしい施策について(該当項目に☑)
医療・介護・福祉 ×交通
子ども・子育て ×交通
教育・スポーツ・文化 ×交通
商業・農業 ×交通
宅配・物流 ×交通
エネルギー・環境 ×交通
地域・移住 ×交通
金融・保険 ×交通
観光・まちづくり ×交通
その他(自由意見)

表：アンケート

豊見城市ラストワンマイル交通需要調査
タクシー200円割引クーポン
(使用期間 :R6.9～ R6.12.31)
(使用時間帯:7:00～19:00)

【利用時の注意点】

- 乗車・降車どちらかが豊見城市内の時のみ利用可
- アンケート未記入の場合は割引を受けられないので、記入忘れや記入漏れには十分お気を付けてください。
- 長距離の移動には、路線バス等へお乗換えください。
- バス停留所の前後は駐停車禁止区間です。タクシー降車時は、少し離れた場所で降りるようご注意ください。
- 1回の利用で割引を受けられるのは1枚分のみです。複数人で利用していても、割引分は1枚分となりますのでご注意ください。

～各タクシー会社の予約用電話番号～

東光タクシー:(全島協同無線) ナショナルタクシー:
0120-288-006 098-850-1736
日栄交通:(協同無線) 津嘉山タクシー:(ペンショングループ無線)
0120-869-112 0120-36-9494
大栄交通:(沖東無線) ※その他、沖縄県ハイヤー・タクシー協会に
098-946-5005 登録いただいているタクシーも利用できま
す。(個人タクシーは利用できません。)

※タクシーの乗務員不足により、曜日や時間帯によっては電話が繋がりにくい場合があります。

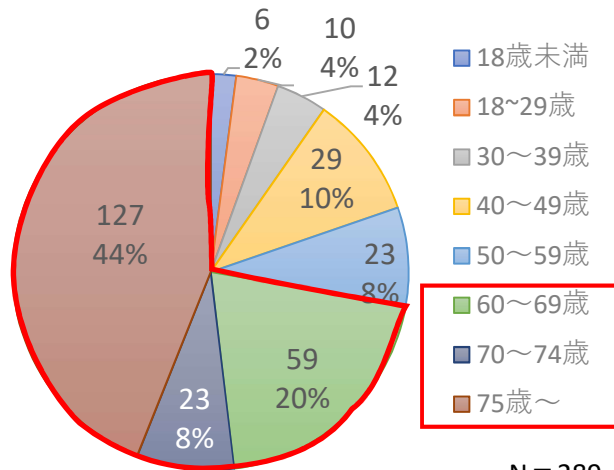
裏：割引クーポン

2.ラストワンマイル交通需要調査の実施

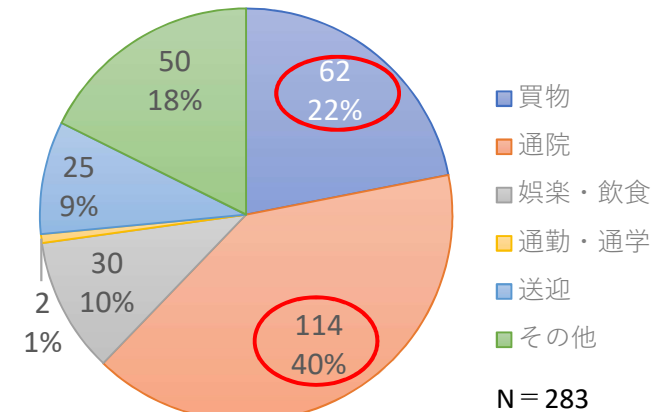
(2) タクシー割引クーポンアンケート調査結果（速報：R6.12月時点）

- タクシークーポンの利用者はR6.12月時点において289人、利用者の72%が60歳以上となり、また、約25%が免許返納者。
- タクシー利用目的は通院、買物で62%を占め、日中の利用に集中。（通勤・通学利用は少ない）

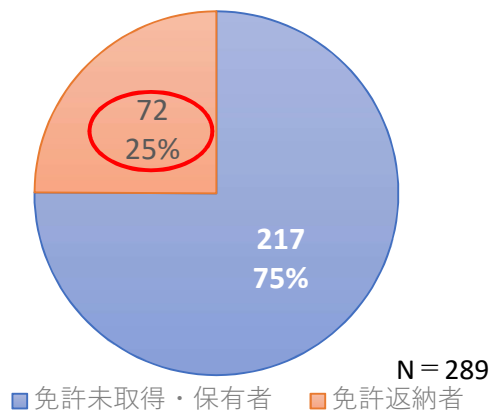
① 利用者の年代別



③ 利用目的

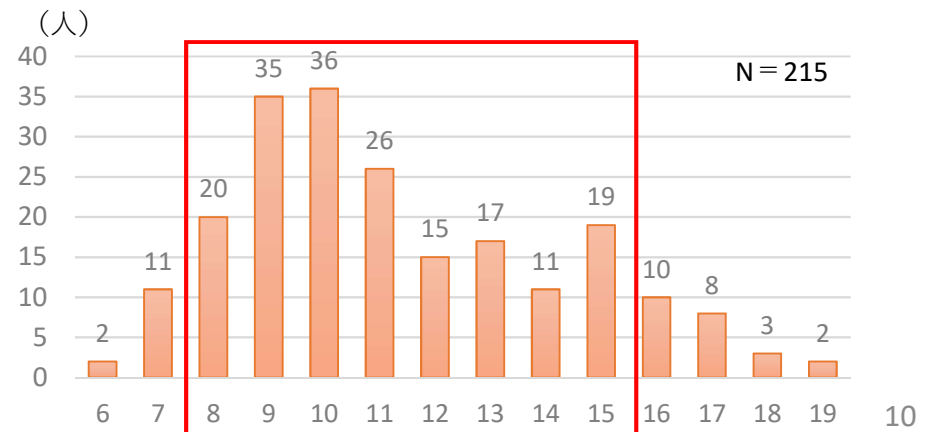


② 利用者の免許返納率



年代	利用者数	内免許返納者
18歳未満	6	0
18~29歳	10	0
30~39歳	12	1
40~49歳	29	0
50~59歳	23	0
60~69歳	59	15
70~74歳	23	4
75~79歳	20	5
80歳以上	107	47

④ 利用時間帯

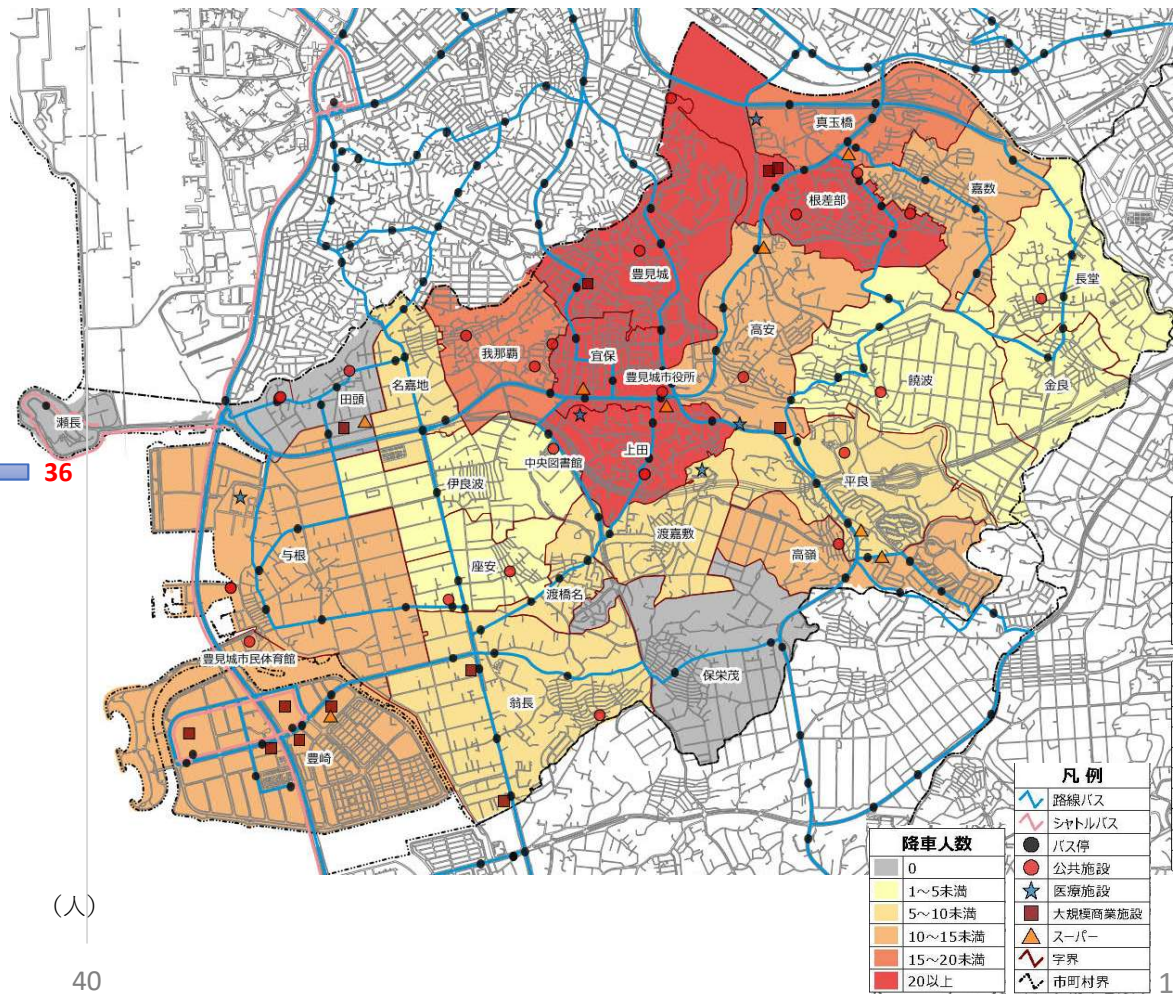
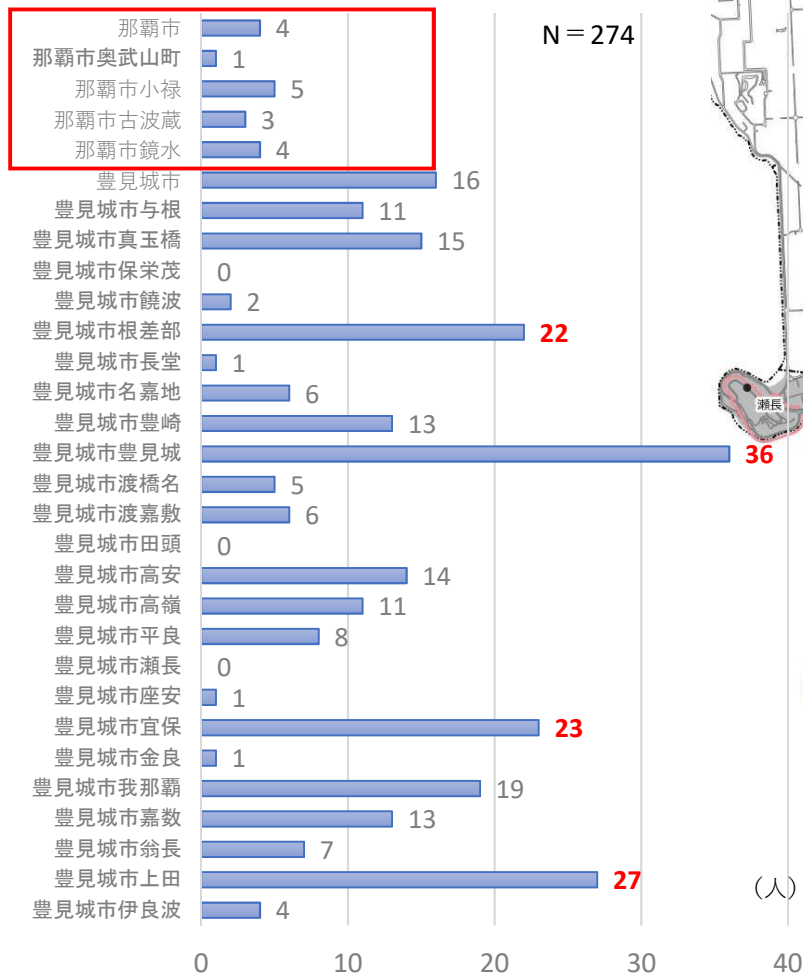


2.ラストワンマイル交通需要調査の実施

(2) タクシー割引クーポンアンケート調査結果（速報：R6.12月時点）

- タクシークーポン利用の**乗車地域**をみると、人口総数及び高齢者数が多い豊見城、宜保、上田、根差部等の地域に集中。
- 那覇市から市内への移動乗車が17名。（乗車数の約6%が市外からの乗車）

⑤ 地域別利用状況（乗車地域別）

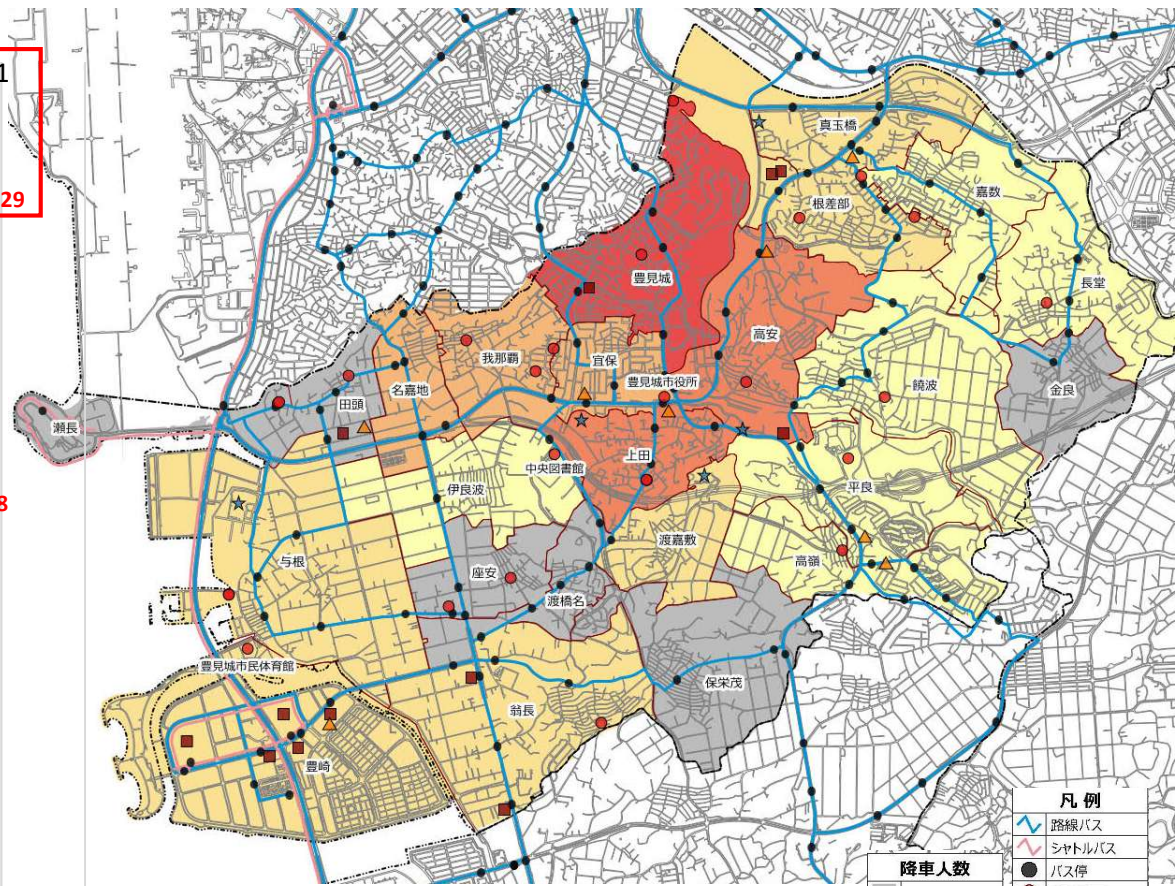
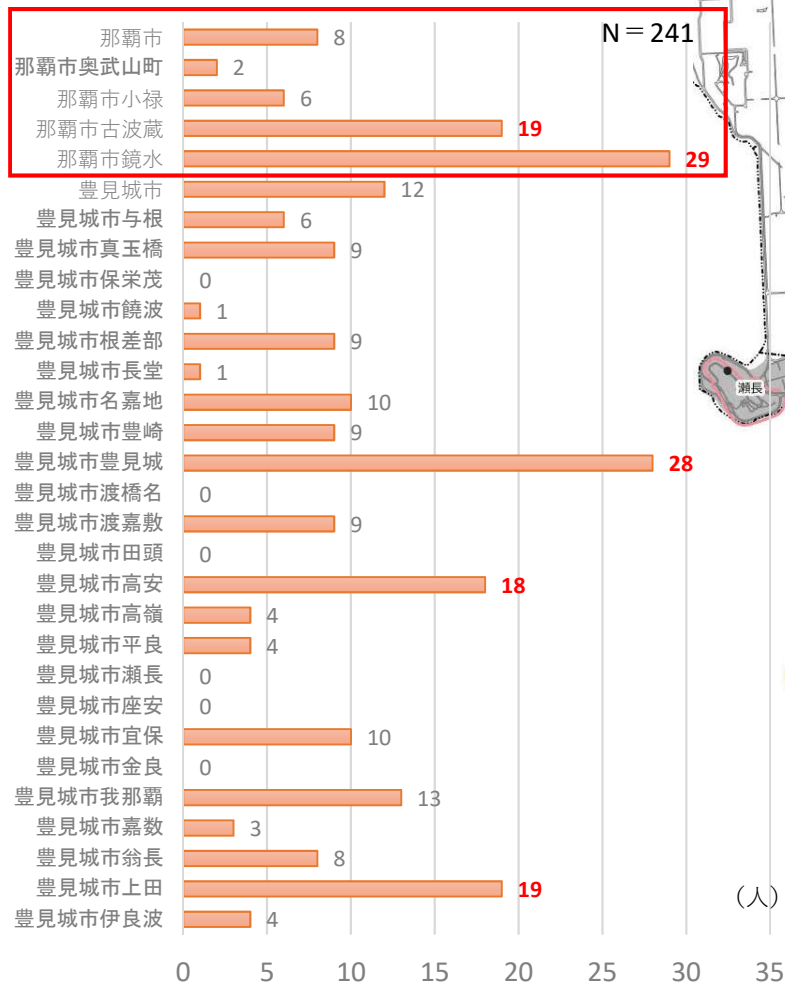


2.ラストワンマイル交通需要調査の実施

(2) タクシー割引クーポンアンケート調査結果（速報：R6.12月時点）

- タクシークーポン利用の**降車地域**をみると、市内では豊見城、上田、高安となり、市外の鏡水、古波蔵での降車も多い。
- 市外への利用では、那覇市へ64名。（降車数の約23%が市外移動）

⑤ 地域別利用状況（降車地域別）

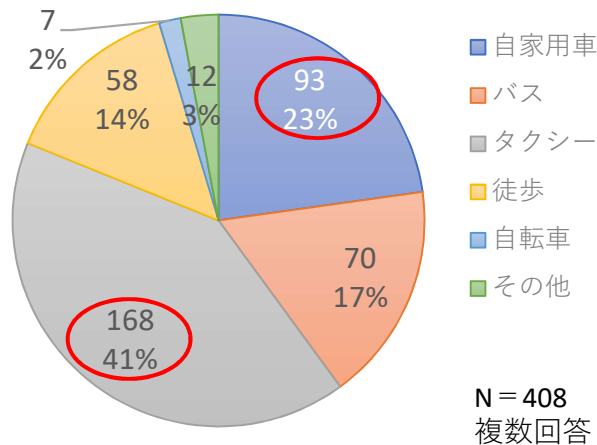


2.ラストワンマイル交通需要調査の実施

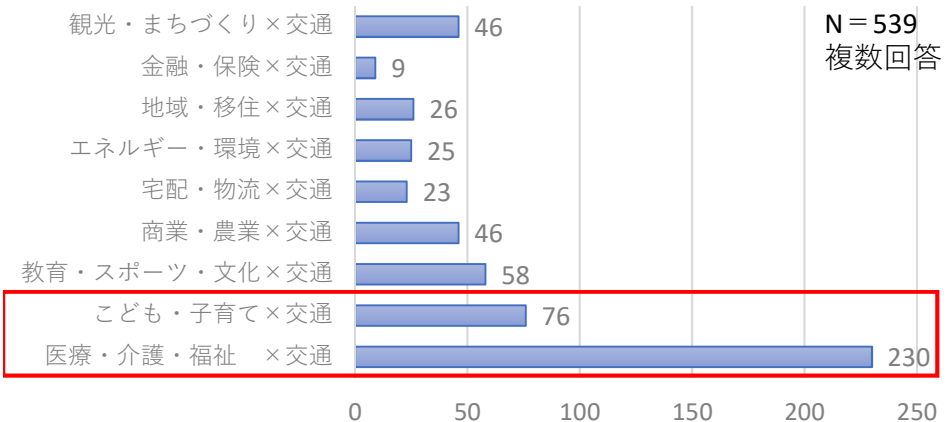
(2) タクシー割引クーポンアンケート調査結果（速報：R6.12月時点）

- クーポン利用者の約72%が60歳以上で、日常の移動手段は、全体でタクシーが約41%、自家用車23%。
- 運転免許の返納意向では、すでに返納者が34%、今後予定が約10%と全体の半分を占めており、本市へ取組んでほしい施策では、「医療・介護・福祉×交通」が最も多く、次いで「こども・子育て×交通」。
- **免許返納者など高齢者の移動支援をはじめ、こども・子育て、教育などの支援が必要と思われる。**

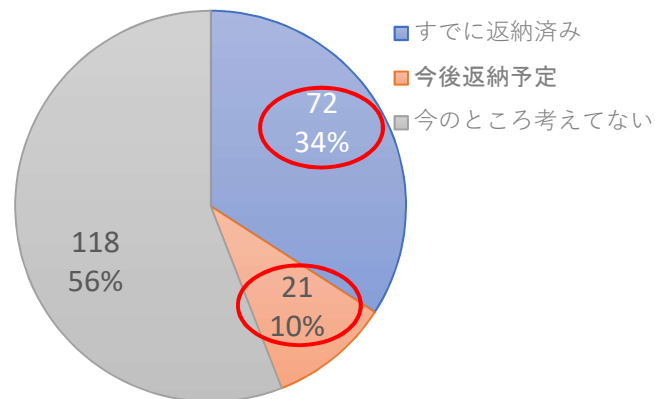
⑥ 日常の移動手段



⑧ 今後、市に取組んでほしい施策



⑦ 運転免許の返納意向



	今後返納予定	今のところ考えていない
18歳未満	0	6
18~29歳	0	10
30~39歳	0	10
40~49歳	0	29
50~59歳	0	21
60~69歳	13	25
70~74歳	2	8
75~79歳	0	3
80歳以上	6	6
計	21	118

2.ラストワンマイル交通需要調査の実施

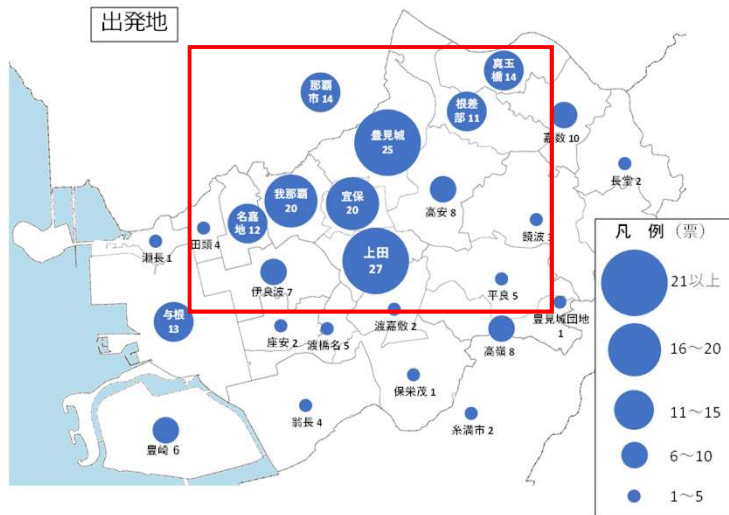
(2) タクシー割引クーポンアンケート調査結果（参考：令和5年度調査結果）

- 令和5年度のアンケート調査結果では、地域別利用状況、利用者年代及び利用目的においても概ね今年度の調査結果と同様な傾向を示している。
- 利用者の60歳以上が全体の60%、利用目的の買物、通院が全体の約55%となり、通勤・通学を目的とした利用は少なく、利用時間帯は午前中に集中し夕方頃の利用は少ない。

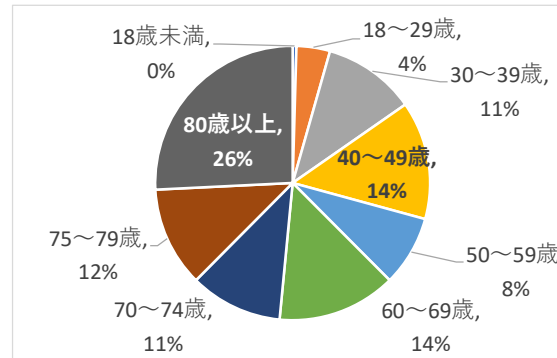
① 利用者数（2カ月）

月	利用者数
11月	105
12月	125
計	230

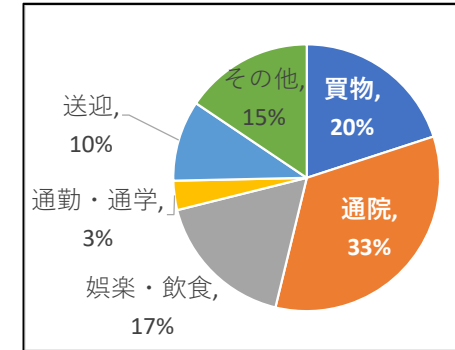
② 利用者数（2カ月）



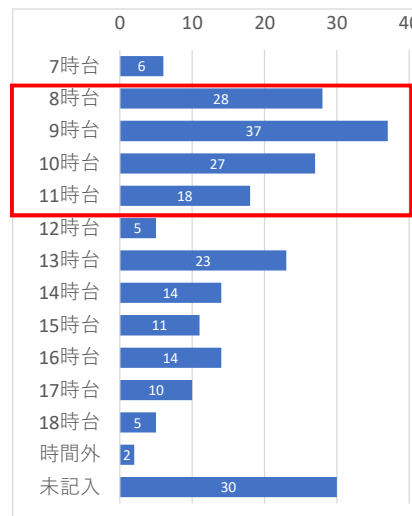
③ 利用者の年代別



④ 利用目的



⑤ 利用時間（乗車）



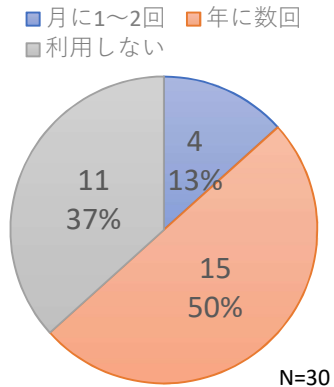
7時台	6	3%
8時台	28	12%
9時台	37	16%
10時台	27	12%
11時台	18	8%
12時台	5	2%
13時台	23	10%
14時台	14	6%
15時台	11	5%
16時台	14	6%
17時台	10	4%
18時台	5	2%
時間外	2	1%
未記入	30	13%
計	230	100%

2.ラストワンマイル交通需要調査の実施

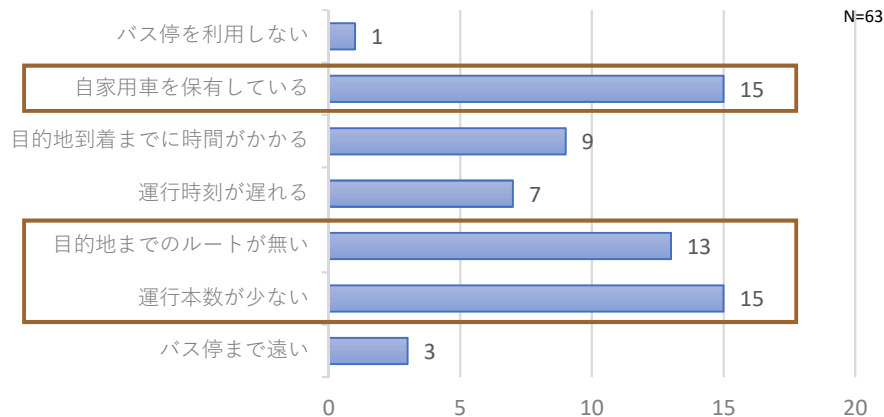
(3) Webアンケート調査概要

- 市内住民へ日常の移動についてWebアンケートを実施し、公共交通の利用や市の施策の認知度等を把握。
- 路線バス利用頻度の低い理由として、自家用車の保有、運行本数及びルートが挙げられている。
- 路線バス利用促進や転換を図るために、運行本数の増便、定時性の確保、また、バス停付近への駐輪場及び駐車場の整備が上げられている。

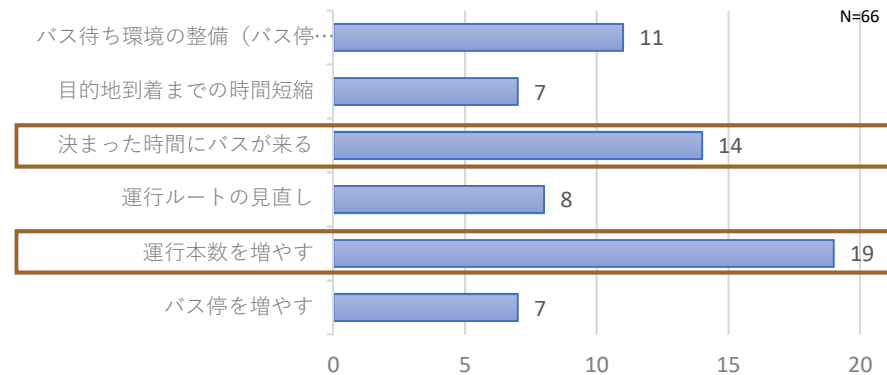
1) 路線バスの利用頻度



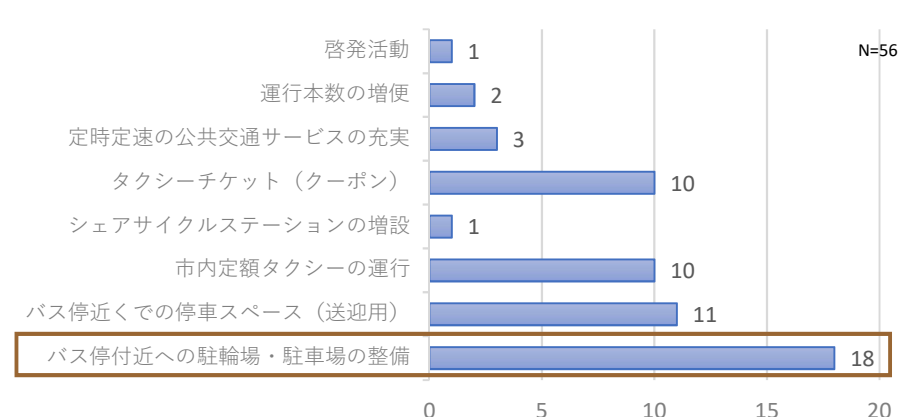
2) 路線バスを利用しない理由 (複数回答)



3) 路線バス利用促進に必要なこと (複数回答)



4) 自動車から公共交通への転換するために必要なこと (複数回答)



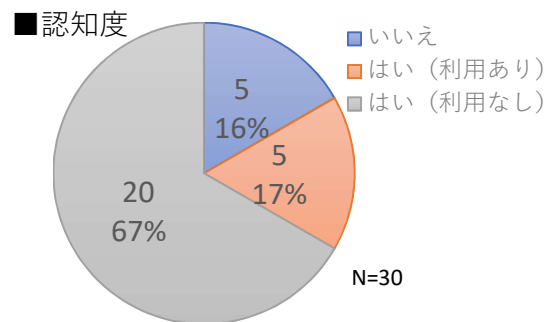
2.ラストワンマイル交通需要調査の実施

(3) Webアンケート調査概要

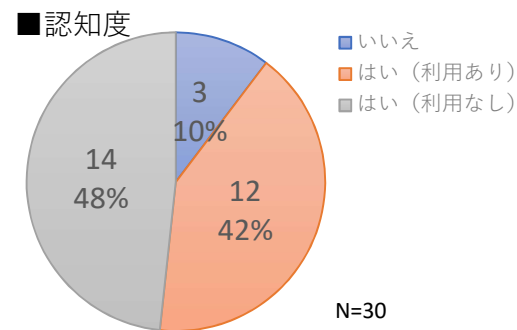
- 市が進めている交通施策について、市民の認知度は70%以上となっているものの利用者の割合が低い。
- 施策の全体の満足度においては満足度は低く、やや不満及び不満の割合が高い。
- 利用者からの課題を抽出と対応を実施し、各施策の環境改善、利用推進を図る。

5) 施策に関する設問

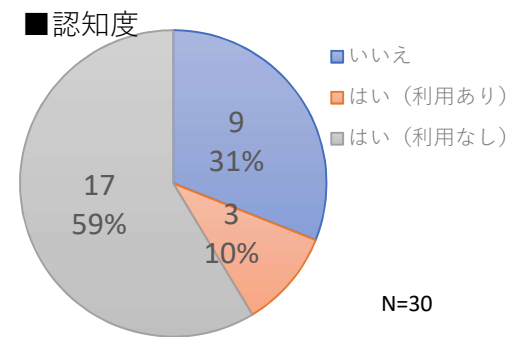
① カーシェア



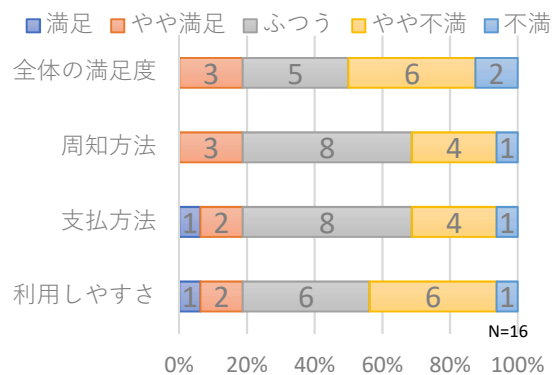
② 市内一周線 (105番線)



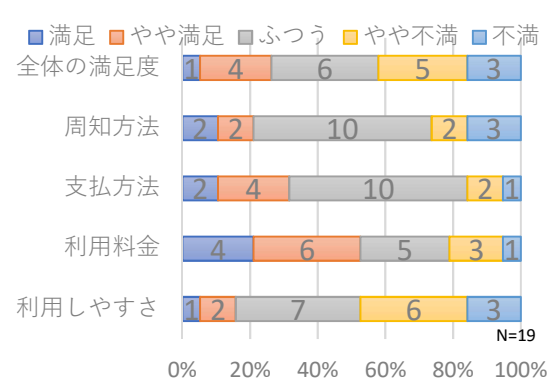
③ シェアサイクル



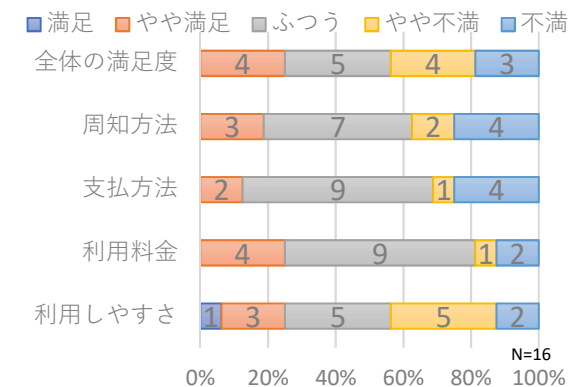
■カーシェア施策の評価



■市内一周線施策の評価



■シェアサイクル施策の評価



3.学校教育におけるモビリティマネジメント（MM）

(1) 市内小学校を対象としたバスの乗り方教室の実施

- 過度な自家用車移動から、公共交通を活用した移動手段への転換を推進するため、市内小学生（4年生）を対象としたバスの乗り方教室の実施。
- バス事業者と連携し座学（公共交通の必要性）やバス乗車体験（バス乗降車方法、車内マナー、車椅子乗車及び運転手体験）等を実施。

■とよみ小学校：令和6年12月20日（金） 9：35～11：25
 ■座安小学校：令和7年 1月21日（火） 9：30～11：20



【座学】

- バスを利用することが、渋滞緩和やCO2削減等、環境や社会への影響を学ぶ



【乗車体験】

- バス事業者と連携し、バス乗車を体験
- バスの乗車時の整理券取得方法、Okicaタッチ等を体験
- 降車時の運賃確認や支払い方法を体験
- バス乗車時においては、バス車内でのマナーについて学ぶ
- その他、車椅子利用時の乗降体験や、バス運転席に着座し、バスの死角の確認等を体験



■参考：交通に関する情報

- 「バスの乗り方教室」の対象となるクラスへ下敷きを提供を予定
- 下敷きは沖縄県交通政策課より提供



* アンケート調査の実施を予定

- バスの乗り方教室の前後において、公共交通に関するアンケート調査を実施し、過度な自家用車利用や公共交通への意識変化を把握

* 写真：令和5年度のバス乗り方教室（豊崎小学校）

3.学校教育におけるモビリティマネジメント（MM）

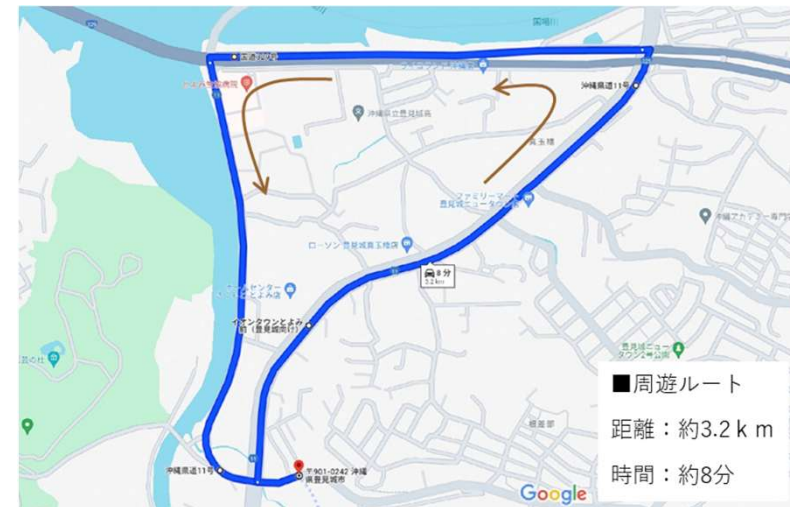
(2) 実施内容

① 授業内容

	実施内容
8:45	学校到着（豊見城市、沖縄バス、中央）
8:55	職員室へ（担当先生へ）
9:00 ～ 9:20	集合場所へ移動（豊見城市、中央） ・準備：プロジェクター、画面 等 学校正門へ移動（沖縄バス） ・学校へバス入庫
5分	休み時間（児童集合）
9:30 ～ 10:00	バスの乗り方教室目的（豊見城市）：10分 公共交通について：20分
15分	トイレ休憩：10分
	バスへの移動：5分
10:15 ～ 10:35	バス乗降方等の説明 ・バスの待ち方、乗り方等について：10分 （時刻表、整理券、OKICA等） ・バリアフリー体験やバス見学：10分
10:35 ～ 11:05	バスの乗車体験 ・バスの乗車体験：15分 ・運転手体験・写真撮影：15分
11:05 ～ 11:15	おわりのあいさつ（豊見城市） 下敷きの配布
11:15 ～ 11:20	機材片付け・撤収 バスの出庫

② バス乗り方教室（周遊ルート）

■とよみ小学校



■座安小学校



3.学校教育におけるモビリティマネジメント（MM）

(4) 実施状況

- 過度な自家用車移動から、公共交通を活用した移動手段への転換を推進するため、市内小学生（4年生）を対象としたバスの乗り方教室の実施。
- 過度な自家用車利用による社会への影響や、実際にバスを活用して乗降方法（整理券、運賃表の見方、運賃支払い方法）及び車内でのマナー等について児童へ説明。

実施状況

座学

- ① バスの乗り方教室について説明
- ② 市内の交通渋滞状況、公共交通の必要性、環境にやさしい移動、市内を走る路線バスについて説明
- ③ 豊見城市が現在取り組んでいる交通施策について説明



バスの乗車体験

- ① バス停での待ち方、乗車する際の注意点（乗車時、整理券の取り方、Okicaの利用方法）について説明
- ② 乗車時の整理券の取り方を体験、バスの走行中は利用金表のみかたや、乗車時のマナーについて説明
- ③ 学校へ到着後、料金の支払い方法を体験し、また、運転手体験を実施

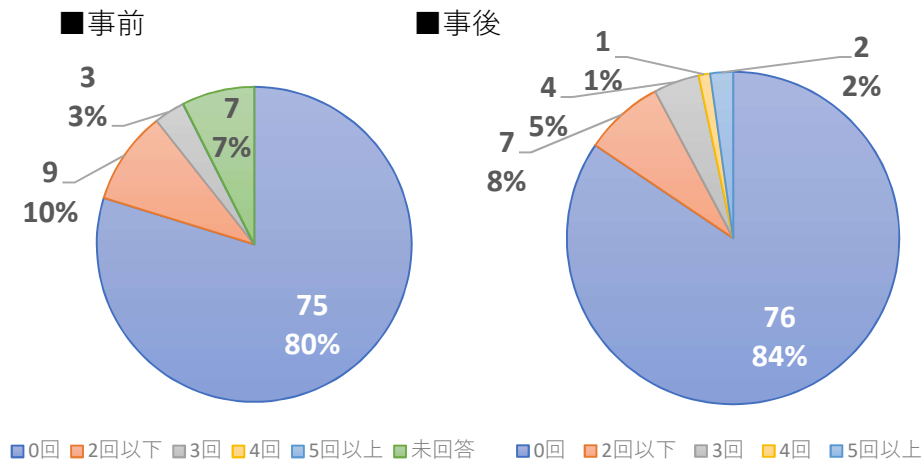


3.学校教育におけるモビリティマネジメント (MM)

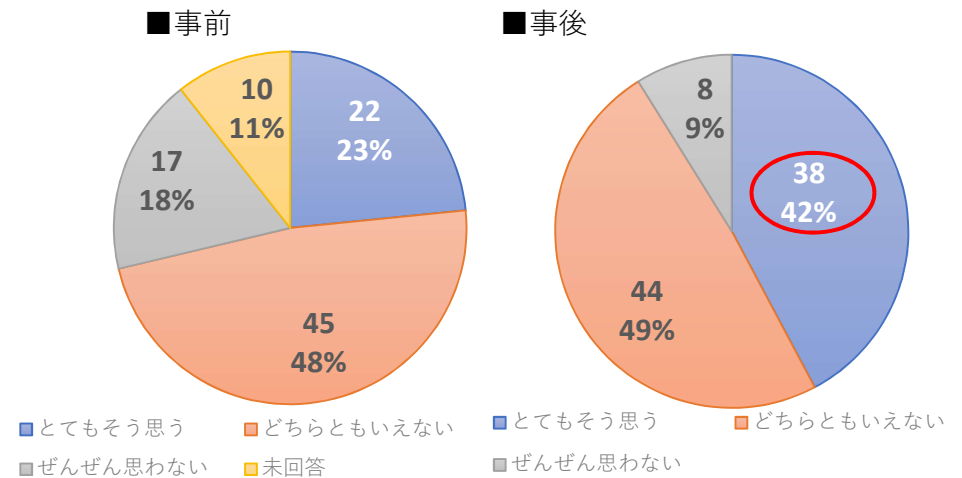
(3) バスの乗り方教室実施による児童の意識変化

- バス乗り方教室実施前後において児童へアンケートを実施し、登下校の送迎が事後において減少。
- バスの利用や車にたよらない生活への意識の向上を確認。
- 公共交通利用促進（行動変容）を図るため、今後も継続的に学校教育におけるMM実施が重要。

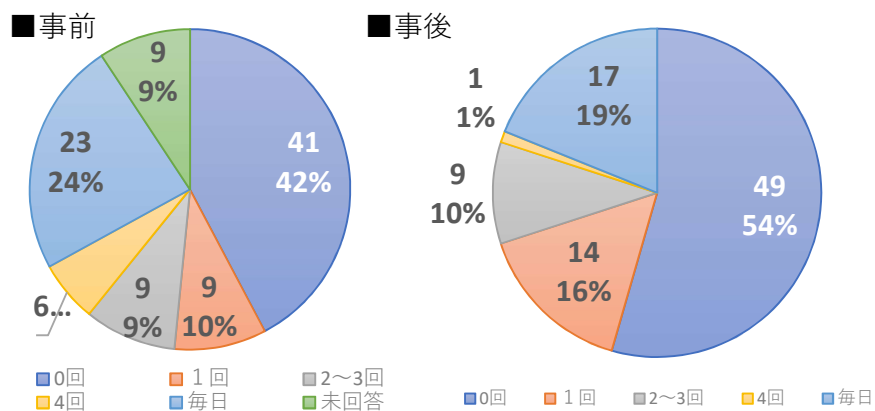
① 一週間以内でのバス、モノレールの利用について



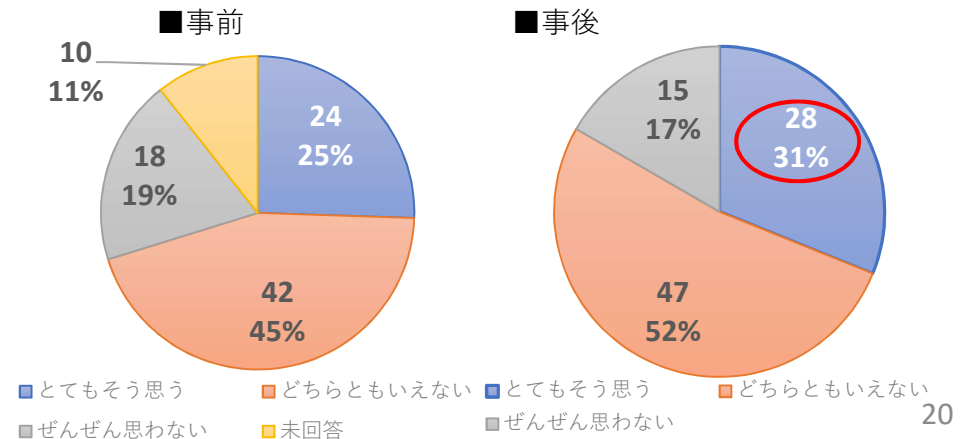
③ 「バスを利用」しようと思いますか？



② 最近1週間で何回クルマに乗って学校へ通学しましたか？



④ 「車にあまりたよらない生活」にしたいと思いますか？



4. 各施策の課題及び展開方針

- 今年度の検討課題より、次年度に向けた検討方針を以下に示す。

	個別施策	現状・課題	今後の取組について
①	豊見城市内一周線 (105番)のルート・ ダイヤ検証・見直し	<ul style="list-style-type: none"> 運行ルート検証のため、R06.12月の1週間の乗降調査を実施したが、季節的な利用者数の変動も考慮する必要がある。(R07.01月結果を取りまとめ中) R6から市内一周線の一部ルートで自動運転EVバス実証運行に着手。将来を見据えた自動運転レベル4で走行可能なルート検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通への転換、満足度の高い「定時性」と「運行間隔」の改善を目指すため、次年度以降も現ルートのバス停毎の利用者数(属性・目的)やその他の交通手段との接続を考慮した最適ルートを検討する。 幹線路線として地域公共交通確保維持改善事業補助金の継続を図るため、交通事業者はもちろんのこと、国・県との協議を行い、安定的な公共交通の提供を図る。
②	ラストワンマイル 交通手段の導入検討 の推進	<ul style="list-style-type: none"> タクシークーポンの利用数は、配布した市内世帯数に対し利用率は低く、ラストワンマイル対策として利用されておらず、需要は低いことが推定される。 クーポン利用者の約72%が60歳以上。タクシークーポンの利用は少ないものの、今後、高齢化による運転免許返納者の増加が予想される。 市民アンケートでは、本市へ取組んでほしい施策は「医療・介護・福祉×交通」、「こども・子育て×交通」を望む声が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> 結果を踏まえR7年度は、タクシー割引クーポンの配布は行わないが、公共交通不便地域の解消等のため、ラストワンマイル施策を検討する。 既存公共交通との共存を考慮しながら、移動困難者(学生や高齢者など)にも使いやすい本市に適した交通サービスの導入に向けて検討を行う。(R8年度実証事業に向けて部局間で連携)
③	モビリティマネジメント (MM)	<ul style="list-style-type: none"> バスの乗り方教室実施により、児童への公共交通に対する意識付けの効果が一定程度あるものと考えられる。 現在、年2校のみの実施となっていることから、効率的・効果的に市内全校への実施手法を検討していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校MMの市内全校への更なる効率的・効果的な実施手法を検討して、バス乗り方の講習を継続して進める。 環境への負荷の軽減や健康への効果などメリットについて公共交通利用に向けた周知啓発を図る等モビリティマネジメントを実施する。